第三章

ジャワ社会における南海の女王と南海冥府の女王、北海の女王

第一節　南海の女王とはいったい誰なのか

〈83〉それはいったい誰なのか、よりはっきり言うと南海の女王(Kanjeng Ratu Kidul)と呼ばれている南海の支配者の系図はどうなのかまた、しばしば南海冥府の女王(Nyai Rara Kidul)としてつらなっているものは誰なのだろうか?はっきりしているのは実際にこの二つの呼び名から、異なるイメージが呼び起こされることである。南海の女王は夫を持っているのか持っていたのか、あるいは見込んであったのかは正確にはわかっていない。確実なのは彼女がより良いイメージを持っていることである。さらに「Ratu=女王」としてして彼女は従者を従えていることは当然である。一方 Nyai Rara という呼称は二つの意味を包含している。Nyai とはジャワ語では既婚女性である。しかしながら、Rara は処女あるいは未婚女性の呼称である。この二つの語が結合して Nyai Rara となると既婚女性とはいえ、彼女はいまだに処女であるというイメージが結ばれる。あるいはその反対に、男性と肉体関係があったというものの夫を持っていない処女でもある。南海冥府の女王は時々南海の支配者の一人として信じられている霊として Nyu Lara Kidul とも呼ばれている。(Mulyono, 2008:207)〈84〉ジャワ語において lara という語は痛みを意味している。呼称に関連すると、Nyu Lara Kidul は南方から招いた「痛感」のイメージを意味する。この人物は、最終的に上記の繁栄を与えられた霊を伴って痛みをもたらす厄払いになるとしても世界と物質的繁栄をもたらすことを約束する Nyai Bloron の姿と同一であり、永遠の存在であり悪行と悪魔の仕業を行う上での Nyai Blorong に仕えるものである。

上記の語彙の分析から、南海の女王と南海冥府の女王は実際に異なる姿を撮るのであることがわかる。南海の女王は支配権を掌握している最高位の形であるとともに良い性質を有している。一方、南海冥府の女王はその呼称からだけでもその反対であり、良くない性質を有しているのである。

この二人の人物の間の相違点についていろいろな解釈がある。諸解釈の中、以下のようなバージョンが集められた。

a. NusaTembini 王国の Dyah Ratu Wadat として呼ばれている南海の女王は、Sigaluh のとある湖の天女と Raden Banjaransar との間の娘で名前を

Dewi Sambang Mandala である。Raden Banjaransari は最終的に Dewi Murdaningrum と結婚したのであるが、Dewi Murdaningrum の夢を見て Raden Bnjaransari が射精した精液を天女 Dewi Sambang Mandala が飲み込み Dyah Ratu Wadat が生まれた。(Santoso: t.t.:17-22)

b. Ni Ajar Cemara Tunggal として Gunung Kumbang で修行者となった、Raden Mundhingwangi の兄である Galuh 王国の Prabu Haryakusumah の長女である。(Santoso: t.t.:31-35)

c. Galuh 王と Dyah Ratu Angin-angin とのあいだの娘 Sang Ratu Ayu あるいは Jeng Ratu Mas Angin-angin とは、Ratu Ayu Pagedhongan として知られている Sigaluh の Prabu Sindula の娘である。<85>

d. Sang Hyang Suradani の孫で Sigaluh の妖怪の女王のひ孫で、Prabu Mundhingsari と Dewi Sarwedi とのあいだの娘の Dewi Retno Suwida>

e. Jenggala の王である Resi Getayu と Dewi Citraswara との間の娘で後日南海の支配者になった Dewi Kilisuci。

Batik motif kawung semar

f. 悪辣な継母ゆえに王宮を抜け出した後、病を得て海で入水した Pajajaran の娘で緑色の葉と batik kawung[1]を好んだ Nini Kandita。

g. Solo 王宮の美女で、継母と口論して Karang Hau の丘から海に飛び込んだ Nyi Mas Dewi Lara Kidul。(Subiyanto, t.t., hlm. 5-21)

以下に、上記のうちいくつかの物語を提示する。以下のいくつかの物語から、上記の南海の女王という人物を研究するうえで、十分にわかりやすい比較材料となるがゆえに、ほぼ全てのバージョンを公表する。

[1] ジャワ更紗の小紋模様

++第一話　南海の女王・Dewi Srengenge++

昔々、Kaditaと呼ばれる美しい娘がいた。その美しさゆえに、美しい太陽を意味するDewi Srengengeとも呼ばれていた。Dewi SrengengeはRunding Wangi王の子供であった。王様は美しい子供がいたのだったが、男の子が欲しくていつも悲しんでいた。この王は後日 Dewi Mutiara と結婚して男の子を得てとても幸せであった。

Dewi Mutiara は将来その子を王にしたいと思い、この希望が実現するように努力したのであった。Dewi Mutiara は王に対面し、王女を王宮から追い出すように願った。もちろん王はそれを拒絶した。「とても面白い。わが姫に乱暴を働こうとするものは許さない」と Munding Wangi 王は言った。その答えを聞いて、Dewi Mutiara も微笑を浮かべ、王の怒りを買わないように甘言を並べた。しかしながら、彼女は自分の意思が実現することをあきらめなかった。〈86〉

その翌日の早朝、Mutiara は女官に Jahil という名の髪結い職人を呼び出させた。Dewi Kadita に呪いをかけるようにその職人に命じたのであった。

「皮膚病にするように」との命令であった。「うまくいったら大きな褒美を与える」とつづけた。Jahil はそれに同意した。その夜に、Kadita が水浴びをしていた時、微風が部屋に吹き込んできた。その風は動物の死体から匂うような悪臭がしたのであった。

彼女がふと目が覚めると、体中に吹き出物ができて腐臭が漂っているのに気づいた。この美人の娘も泣いてどうしてよいかわからなかったのである。

この話を王は聞いて大変悲しみ、この娘の病気を治療するために多数の魔術師を呼び寄せた。この病気が自然のものではなく、人為的な呪いであるということに王は気づいた。Ratu Dewi Mutiara がその姫を無理やり遠ざけた時、問題はますます困難になったのである。「あなたの娘は

南海の Segarasewu の女王 Kanjeng Ratu Kidul

国中に不幸をもたらすだろう」と Dewi Mutiara は言ったのである。〈87〉

Raja Munding Wangi は朝その話を聞いてたいそう悲しんだ。Kadita の病気は普通の病気ではなく呪いによるものだと王は心で分かったのであった。これは Mutiara が画策した可能性が高いと王は気づいた。ただ、どうして証明するかが問題だった。迷ってはいるが王はそれをすぐに決めなければならなかった。高官からの圧力で、当初美しかったこの娘は非難されないように遠くに蟄居させられなくてはならなかった。

Kadita はまるで金持ちの家から追われた乞食のように一人だけで王宮を追われた。心はちぢにみだれ、涙が頬を伝った。が全知全能の神はその創造物である生き物を暴虐と同じような状態に放置してはおかないと彼女は固く信じていた。神のご加護が必ずある、そのためには、先祖から教わったように彼女を恨んで憎む者たちを憎んではいけなかったのである。

日に夜を次いで進み、彼女はちょうど七日と七晩後に南海の海岸に至った。海岸に立って海の広さ、海の色が青や緑の他の海とは異なる大洋の水の美しさと透明さを見ていた。すると、海に飛び込めという声が聞こえた。

彼女は水に飛び込み泳ぎ始めた。すると南海の水が肌に触れた瞬間に奇跡が起こった。できものが消えてなくなり、皮膚病の跡もなくなった。そのうえ、彼女は前よりもより美しくなったのである。これだけではなく、彼女は海とその中のすべてを支配し、高貴で堅固で美しい王国を建国しその権威を持つことになった。この時から彼女は永遠の命を持つ Nyi Rara Kidul あるいは Ratu Pantai Samudera Selatan(南海の海岸の女王)と呼ばれる天女になったのである。彼女こそが現在南海の女王と呼ばれる人物なのである。

++第二話　南海の女王、Jaka Suruh と Ratna Suwida の恋愛物語++

Babad Tanah Jawi[2]（19 世紀:Santoso, 1979; Soedibya, 1980; Olthof, 2007)の中

[2] ジャワ年代記

で、Pajajaran[3]の王子の Joko Suruh[4]が東ジャワの Majapahit 王国と遭遇させるように仕向けた一人の修行者と出会った、と述べている。〈88〉その修行者は若くて美しい女性であったので Joko Suruh は恋に落ちてしまった。しかしながら、その修行者は Ratna Suwida という名の Joko Suruh の実際のおばであったためその恋を諦めたのであった。若い時、山の中で修業をするために Ratna Suwida は家族の下を離れた。その後彼女はジャワの南海岸に行きその地で神秘的な支配者となった。彼女は王子に、子孫は Merapi 山に近い場所にある王国の支配者になった時に、彼女はその子孫とかわるがわる結婚すると言った。その話の要約は次に述べる通りである。

Pajajaran 王国が Prabu Mundingsari の支配下にあった時分、王には Ratna Suwidi という姫がいた。この姫は現世的なものを退けて苦行することが習慣であった。大変多くの王や王子たちから結婚を申し込まれたが、精神世界を第一とするこの姫はその一つとして受け入れることはなかった。度重なる申し込みの拒否は王様を怒らすとともに憐憫の情も湧かせたのだった。その結果、王はこの姫を王国から追放した。その後、Ratna Suwidi は一人で放浪し、山を登り下り深い森を通り抜け東へ向かった。その目的は修行に適すると思われた場所を探すことであった。最終的に、彼女は修行に適する Kumbang 山の頂上を発見したのであった。この山の頂上には松の木が一本生えていた。その神秘的能力で松の木は一人の男性に姿を変えた。この山の頂上に生えているこの松の木は、Hajar Cemara Tunggal[5]という別名で今まで残っている。この修行者は後日、その超能力と Waskhita (透視能力や読心術)という特技で有名になったのである。

とある日、Hajar Cemara Tunggal (Ratna Suwidi)は dewa の訪問を受け、ずっと修行を続けている意志を尋ねられた。Ratna Suwidi は、永遠の命を得て時代を超えて永らえたいと答えたのであった。すると、dewa は、人間は時代を超えて生きることはできないが、霊体になる準備ができた時に Ratna Suwidi の願いはかなえられると答えた。〈89〉Dewa のこの条件を満たすことで Ratana Suwidi はその後、ジャワ全土の全ての霊を従える霊体に姿を変えたのであった。

---

[3] 西ジャワ地方にあった王国
[4] Joko は jaka に同じ。ジャワ語では a を o と読むのが一般的。
[5] 一般的には Ajar Cemara Tunggal と呼ばれている。

Hajar Cemara Tunggal が Kumbang 山で修業をしていた時、Pajajaran 王国の皇太子であり覇権争いから臣下とともに逃れた Raden Susuruh(Pararaton[6]では Raden Wijaya)が訪ねてきた。Hajar Cemara Tunggal の持つ Kawaskithan[7]のおかげで、彼女は Raden Susuruh が訪ねてきた意図と目的を知った。そして Hajar は Raden Susuruh に東に向かって旅を続けなさいと指示を与えた。とある場所で実が一つしかなっておらずその実が苦い Kemaja を見つけたら、そここそがジャワ全土の支配権を掌握し王なるための修業する場所となる、と。この地から、Raden Susurh が Pajajran 王から受けた仕打ちに復讐することができるのだ、と。

Hajar Cemara Tunggal はその後で、自分の逃亡物語と実際に自分が誰であるかを述べたのだった。系図によると、Hagar Cemara Tunggal は Raden Susuruh の祖父の妹であった。しかし、話の間、ついに彼女は姿を変え、美女 Ratna Suwidi に生まれ変わった。この超能力のおかげで、彼女はも mancal putra - mancala putri（素早く男女どちらにでも姿を変える)ことができるようになった。Raden Susuruh は自分の前にいる美人に魅かれてしまい恋に落ち、彼女に近づいて言い寄ったのであった。するとすぐに彼女は Raden Susurh の眼前から消え失せて再び Hajar Cemara Tunggal に姿を変えた。Raden Susuruh は自分の行為を恥じて Hajar Cemara Tunggal の足元にひれ伏し許しを乞うたのであった。

Hajar Cemara Tunggal は慰める口調で、後日 Raden Susuruh が Majapahit の王に即位した時にはいつでも再び会うであろうと話をつづけた。後日 Raden Susuruh がジャワ全土に覇権を及ぼし支配した後、Hajar Cemara Tunggal は Kumbang 山での修行をやめて海岸に移った。<90>海岸(ジャワの南海岸)で修業をしている間に彼女は「南海の女王」と呼ばれる美人の最初の姿に変身した。Raden Susurh への Hajar Cemara Tunggal の最後の注文は、Raden Susuruh とジャワの王になるその子孫が問題に直面した時には Hajar Cemara Tunggal を呼ぶがよいということであった。すぐに Hajar Cemara Tunggal は部下とともに必ず来るというものであった。これ以外に、将来ジャワの王になる Raden Susuruh の子孫たちが出た時には南海の女王と結婚できるというものもあった。

---

6 ジャワのシンゴサリとマジャパヒト王年代記
7 透視能力や読心術

Raden Susurh の直系子孫である新マタラム王国を建国した Panembahan Senopati は、北の王国と戦う軍隊を編成する準備で、すべてのエネルギーを集めるために南岸に独居した。彼の瞑想は南海の女王の注意を惹きつけ、彼女は支援することを約束したのであった。三日三晩の間、彼は行政と軍事に関する秘密を学習し、水中の宮廷での恋愛に陰謀をめぐらし、最終的に、現在のジョグジャカルタ南部にある Parangkusumo 海岸から南海の女王は姿を見せた。その時から南海の女王は、支配者の Senopati の子孫と親密な関係を維持していると報告され、ソロとジョグジャカルタ宮廷の代理人を通じて毎年ここでそのための宴会が催されるのである。

++第三話　Pajajran 出身の Ratana Suwida 姫++

人口に膾炙している話では、南海の女王は若かりし頃、その名を Dewi Retna Suwida といい、Mundhingsari 王と Dewi Sarwedi との間に生まれた娘で、Hyang Saranadi の孫で、Sigaluh の魑魅魍魎の王のひ孫であった。

この姫は宮廷から逃げ出し、Kumbang 山で修業に入った。この修行中に、その形を女から男へ、あるいはその反対に変える霊力をしばしば見たのであった。この姫は処女であり、ジャワ島全土の魑魅魍魎の女王になった。その宮殿はインド洋[8]の底にあった。魑魅魍魎の血を確かに引き継いでいるからこれは不思議ではない。

魑魅魍魎の女王になってから、Kanjeng Ratu Kidul Kencanasari[9]という名前を得たのであった。一方、Nyai Lara Kidul（スラカルタの宮廷では Nyai Lara Kidul は南海の女王自身ではなく、その臣下と言われている）と呼ぶ人もいる。かおをあそれどころか、Nyira Kidul と呼ぶ人までいる。そしてさらに邪道なのは Bok Lara Mas Ratu Kidul である。Lara は Rara から派生した語で処女を意味する。

比類なき美しさを持ったこの Dewi Retna Suwida はライ病に罹ってしまった。その治療のため、海の近くにあるとある湖で沐浴をしなければならなかった。とある日、顔を洗おうとしたとき彼女は水鏡に映る自分の顔を見た。その顔が崩れてい

8 :原文では Samdera Indonesia
9 「黄金の南海の女王」の意味。

ているのに驚いて、海に飛び込んでしまい二度と陸地には戻らず、人間性を失い魑魅魍魎になったのであった。

++第四話　南方の女王、バタック人の子孫の Biding Laut++

このバタック人の放浪の話は二人の王子を持つ王がいたというところから始まる。兄は Guru Tatea Bulan、弟は Raja Isumbaon という名であった。兄の Guru Tatea Bulan は息子が 5 人、娘が 6 人の 11 人の子持ちであった。五人の息子は Raja Uti と Saribu Raja, Limbong Mulana, Sagala Raja, Lau Raja という名であった。一方六人の娘は Biding Laut と Siboru Pareme, Paronnas,Nan Tinjo, Bulan, Si Bunga Pandan という名であった。

長姉の Biding Laut は妹たちよりずっと美しかった。彼女は親しみがあり親には礼儀正しかった。それ故、Biding Laut は両親から最も可愛がられたのである。Biding Laut への両親の親密さがほかの兄弟からの嫉妬を招いてしまった。彼らは Biding Laut を忌避することになったのである。

とある日、兄弟たちは Sibolga[10]の海岸へ Biding Laut を誘って遊びに行くように父親に話した。本当なら Guru Tatea Bulan は Biding Laut が最愛の娘であるためにこの提案に賛成できなかった。が、兄弟たちはこの件を言い続けたため最終的には父親も反対できなくなってしまった。〈92〉

とある日、Biding Laut は兄弟たちに誘われて Sibolga 地区へ遊びに行った。Sibolga の海辺から、Nias 島に近い Marsala という小島へ二艘の船で向かった。

Marsala 島について、彼らは無人島の美しさを満喫したのであった。この時まで、Biding Laut は、自分を不幸にしようとしている兄弟たちの目的を知らなかった。Biding Laut は海岸からますます離れていく兄弟たちに付いていくだけであった。

昼近くになり、Biding Laut は疲れを感じて一休みしひと眠りした。彼女は一人きりに放置されるとは全く疑っていなかったため、この機会は兄弟たちが Biding Laut を島に一人で放置しておくための好機であった。

---

10 北スマトラ州の西海岸にある地域

海岸で Biding Laut の兄弟たちは二艘の小舟で Sibolga に帰ろうとしていた。しかし、兄弟の一人が一艘だけを残しておこうと提案した。それは、もし二艘とも Sibolga に戻ったら疑われると彼は懸念したからであった。誰かが尋ねてきたときに、Biding Laut の乗った一艘は沈んでしまったといえるから、乗ってきた一艘だけを使うのが良かったからである。

しかしながら、この兄弟たちが計画したことは、運命がそうさせなかったので実現することはなかった。Biding Laut は目覚めると、Marsala 島に一人ぼっちで取り残された自分を発見して驚いた。彼女は兄弟たちに会おうと海岸まで走った。しかし、一艘の船以外何も発見できなかった。Biding Laut はなぜ自分だけが取り残されてしまったのかがわからなかった。しかし、彼女は兄弟たちが自分を不幸に陥れようと画策しているなどとは全く考えもつかなかったのであった。長く考えることもなく、彼女は船に乗って Sibolga の港に向かって漕ぎ出した。

しかし、大波は Biding Laut を生まれ故郷へは戻すことをしなかった。数日間、スマトラの西海岸を漂流した。彼女は空腹と太陽の熱で何度かわからないほど失神した。この苦境は船がバンテンのあたりのジャワの海岸に打ち上げられたところで終わったのであった。〈93〉

彼女を実際に見つけた漁民がその後 Biding Laut を支援した。その新しい家で Biding Llaut は上質の治療を受けた。Biding Laut はこの新しい家族と一緒にいて幸せを感じていた。彼女は心のこもった待遇を受けた。ほどなく、この件が村人の口に上りその最初の話題は彼女の美しさだった。

この地域に王がジャワ東部からやってきたと物語は続く。道中で休憩をとっている時、天国から舞い降りた天女のような大変美しい女性がその前を通り、王様の注意を引くそぶりを見せた。それに惹かれて、王様は実際には Biding Laut である美しい姿に説明を求めた。Biding Laut の美貌に惹かれて、王様は彼女と結婚したいほどであった。

Biding Laut はこの嫁入りを拒否しなかったので、この二人は結婚することになった。その後、Biding Laut は東ジャワにあった王国に連れていかれた。

Biding Laut は、王に即位した夫と幸せな生活を送った。が、その幸せは長続きしなかった。宮廷使用人とBiding Laut が不倫関係にあると訴追する陰謀が巻き起こったのである。宮廷の決まりで Biding Laut は死刑になる判決を受けた。

この状況は王様の心を乱した。王は最愛の妻を死刑にはしたくなかったが、法律は順守しなければならなかった、そこで王は海路で Biding Laut を Banten に送り返す策略をめぐらした。なんという運命だろうか。彼女と従者たちはインド洋側、ジャワの南岸に沿って進んだ。この移動中に強風を受けて彼らが乗った船が沈没してしまった。Biding Laut と従者たちは南海の底に沈んでしまったのであった。

++第五話　ジョクジャカルタ王宮の Abdi Dalem[11]よる南海の女王++

これに続くのは、1911 年に生まれた Slamet Karsodiharjo の KRT[12]による南の女王の血筋関する物語である。同氏は革命の時代、隊長に祭り上げられることがはっきりしていたのでスハルトに誘われた時に身を隠したから普通 Mbah Delik[13]と呼ばれていた。かれもまた Hamengku Buwono IX 世の侍従であり、Mbah Marijian (Hamngku Buwono X 世の侍従)の先輩でもあった。

彼の話によると、Mbah Delik も南海岸で南海の女王に会おうとしばしば Hamengku Buwono IX 世に誘われた。普通かれは Pandan Simo で Legi の木曜日の晩に瞑想を行うのであった。南海の女王に会うためには、だれでもこの呪文を唱えなければならない。

1. Putra wayah marak wonten ngersanipun Kanjeng Ibuu (女王様にお会いするべく子孫がやってまいりました)
2. Putra wayah Ngersaaken sembah pangebekti wonten ngersanipun Kanjeng Ibu Ratu (子孫が女王様に尊敬の祈りを捧げたいことを申し上げます)

この呪文を唱えて瞑想を行った後、普通は南海の女王に会い、彼の人生に関する指示を受ける。彼が人生上での幸運が続くよう願う時には、南海の女王は象

11 宮廷内の高級侍従°
12 Kukuh Purwant 氏によると Kanjeng Ratu Temanggung
13 ジャワ語で「目を大きく開く(刮目する)お爺さん」の意味

徴的で比喩的な指示を与え、その人自身がそれを解釈するのである。

霊界の多くの部下を魅惑する南海の女王の肖像画の一枚。

この種の絵は、南海の女王に会うためにしつらえた特別な部屋にしばしば飾られている。

この南海の女王はスマラン付近の出身である Nyai Plencing と言われている。彼女は元々機織りと毬を作るのが大変好きであった。〈95〉機織りに精を出している時に、彼女の美しさに魅了された男がいた。その男は彼女の家に入って彼女に会おうとした。一日中放浪していたので喉が渇いたから水をいただきたいとその男は Nyai Plencing に話しかけた。忙しくしていた Nyai Plencing は冷たく、私ものどが渇いているけれどまだ水を飲んでいないし、おしっこ以外に水はないと答えたが、そのおしっここそがその男の望むものだった。その後男はしつこく Nyai Plencing を追いかけた。その反対に Nyai Plencing は恐くなり、Merapi 山の火口まで逃げた。彼女はその河口に飛び込んで自殺しようと思ったのであったが、死場所を湖にするよう老女が思いとどまらせた。この湖こそがほかならぬ南海岸であったのだ。南海岸に身を投げても彼女は死なずに、後日彼女の王国となる美しい家を見つけた。

その後、南海の女王は Danang Sutowijoyo と出会い、Danang Sutowijoyo の子孫がジャワの土地の王になるであろうし、子孫の全てが私の夫になると語った。Hamungku Buwono IX 世までの Danang Sutowijiyo の子孫が南海の女王の夫であるということは不思議でも何でもない。Mbah Delik によると、南海の女王に会いたがらなかったのは Hamungku Buwono X 世だけであるとのことである。不思議なの

は、歴代のジャワの王と肉体関係があったのにもかかわらず、南海の女王は一度も妊娠したことがないのである。(正しくは、妊娠できなくなっているのは確かに別世界の住人だからで、南海の女王が不妊ゆえに問題になっているのではない。)

ジョグジャカルタ王宮の他の侍従たちによると(Twikromo 2006)、南海の女王は幽体の形をとり、ジャワの王と特別な関係にある。新マタラム王朝を建国して以来、Panembahan Senopati (新マタラム王朝の創始者)と南海の女王との関係は深かった。まだ存命して Desa Patran に住んでいる同侍従はこう語っている。

> マタラム王朝が建国されようとしたとき、Panembahan Senopati は南海からの支援を受けようとし、Ki Juru Martani は Merapi 山からの支援を受けようとした。その時、Panembahan Senopati に従うものは dotnas (800)人だけであり、babad alas (森林開拓)を行うことはできなかった。<96>南海からの幽体の軍隊の支援のおかげで、この alas が開拓されえたのである。

南海の女王は、ジャワ地方に障害が生じたときはいつでもジャワの王を喜んで支援する幽体の女王なのである。Panembahan Senopati と南海の女王との契約に基づいて、この二つの王国は必要に応じて互いに支援しあっている。Babad Tanah Jawi の中で(Sudibyo, 1980: 105-106)、後日両王国が相互支援をするようになった Panembahan Senopati と南海の女王との恋物語について以下のように描いている。

Senopati は南海の女王と異なる世界の住人であることを認識しつつ常に耐えていたが、彼は常に南海の女王に密着していた。南海の女王も Senopati の感情を理解はしていたが常に慰めていた。Senopati ing Alaga[14]は微笑みつつ南海の女王にこう話しかけた。「姉上様、ご心中にあるように感情のせめぎあいをご覧になりたいようですね」。南海の女王は「問題はありません。私はお待ち申し上げているだけで、あなたにはその権利があります」と答えた。Senopati は南海の女王に腕組みされて部屋に入った。二人は愛し合って結婚すると見えたのだった。

Senopati はゆっくりとこう言った。「姉上様、寝室を見せていただいて大変驚きました。天国というのがこういうのでしょうね。生まれて初めてこのような美しい飾りを

[14] Panembahan Senopati の別名

見ました。この所有者につりあって魅力的で整っている。姉上様は Mataram にお戻りすることを厭って、ここにお住まいになることを欲しているのでしょう。しかし、ここには足りないものが一つだけあり、それは男性がいないことです。見目麗しい男性がいたらなんと素敵なことでしょう」。

南海の女王はこう申し述べた。「そのとおりで、女王一人だけです。望むのは支配する者がいないことです」。Senopati は悲しみながら笑みを浮かべて「恋心に効く薬を頂けませんか」と。南海の女王は色目づかいをしながら「私は dukun ではないので薬を処方できません。殿下は大王であらせられるのだから、わたくしよりずっと多くのものをもち不足などないことははっきりしています」と。Senopatiは心中憤慨してはいたものの感情がたかぶり、南海の女王を抱き上げた。

その後 Senopati は三日三晩南海に滞在し南海の女王と夫婦として過ごした。Senopati は人間界と幽界を支配する王になるのに必要な知識を毎日習ったのであった。〈97〉「姉上様、お教え大変ありがとうございました」と美しい Senopati は言った。「そして、姉上様も信じていらっしゃり、その反対に Mataram が敵に対面した時、あなた様に連絡するのは誰なのでしょうか?

上記の Panembahan Senopati の恋物語によると、今に至るまでジャワの王になった Panenbahan Senopati の子孫は南海の女王とのはっきりした深い関係がある。この関係とは、新王の即位式での行列の時、サルタンの横にしつらえられた席は南海の女王のためであるから、王妃はこの行列には加わらない。

目には見えない幽界の支配者として、南海の女王はジョグジャカルタのサルタン国王が行政を行うための協力者となった。王国を転覆する種々の障害をはねのけるべく、同王は南海の女王の支援を得ることができるようになったのである。

あるいは、上記の南海の配者の有する超能力をつうじて、ジョグジャカルタ王宮の支配者たちは、国王あるいは王朝、その国民を転覆させる種々の危険を避けるための「ささやき」をしばしば与えられているのである。この件は、ジョグジャカルタサルタン国の諸王は系譜によるといまだに南海の女王の子孫を形づくっていると理解されうるのである。

このように、南海の女王あるいは南岸の女王に関するいくつかの物語や伝承が存在する。どの話が正しいのかは各人の神秘体験によって異なる。同様に、南海の女王と南海冥府の女王が同一人物であるのかそうでないと解釈するのかも問題になってくる。著者自身は、この二人が別な人物であるという説である。南海に起因する日頃の行動や騒動、災害など良くないものを創造するのは、南海の女王の大臣であり将軍である南海冥府の女王なのである。それらが南海の女王の仕業であると理解する人たちが一般的である。この話の下にある説は、ジャワイスラムの神話によると誰が南海の女王であるかをもっとはっきりさせなければならなくなる。(この問題が正しいかどうか、著者はこれだけしか言えない。「神のみぞ知る」)。

前出の Babad Tanah Jawi における南海の女王の物語に関する解説は、南海の女王の存在に関してそれがすでにあったとする概念を与えるかあるいはそれを強化するものである。これらの概念からいろいろなアイデアが浮かび上がってきてそれには、例えば南海の女王は霊界のたいへん美しい女王であるとか、尋常でない超能力を保持している、何にでも姿を変えることができる、人生の守護神、平和の守り神、漁民に恩恵を与える海の支配者などがある。これ以外に、上記のイメージとしばしば相対する、本当はほかの人物によって演じられているというイメージも浮かんでくる。この件に関連して、Srandil 山(Adipala, Cilacap, Jawa Tengah)を行動の中心としている生存しているジャワの神秘主義者は、南海の女王は人間に対して本当に welas asih (慈愛が籠って)いると言っている。しばしば犠牲者を出すのは南海の女王の兵隊である Nyai Blorong である。この Nyai Blorong はしばしば南海の女王に memba-memba(あたかも南海の女王のように姿を変える)のである。大多数の人たちは彼らが南海の女王に対面しているのか Nyai Blorong に対面しているのかはわからないのである。もしそうなら事故に遭うこともあろう。

上記の説明は、南海の女王は、彼女とは性格が反対の代理人あるいは部下を持っている Segara Kidul の[15]支配者であるという理解を我々に与えるのである。

上記の神話の現実性は、ジョグジャカルタの社会で信じられている伝説があることで強化されるのである。南海の女王が南海を支配する前、そこにはすでに王が存在したといわれている。この王は巨人女の形をしており、南海の魑魅魍魎達

[15] 南海

を支配していた。この巨人女の王は、異常な超能力で南海の女王に負かされてしまった。この王が負けた後、南海の女王が南海の王になりジャワ全土の魑魅魍魎を支配することになった。負けた王は後日、patih jawi(ジャワ全土を支配する)大臣に取り上げられた。この王は南海冥府の女王(Nyi Blorong)と呼ばれ、南海の幽界の軍隊を指揮することになった。〈99〉

南海の宮殿にいる Patih Jawi の権力を見た時はいつでも、Hamengku Buwono IX 世の治世以前のジョグジャカルタの状況を通じて、この patih の権力をサルタンが制御できずに外部の権力(オランダ)にしばしば利用されてしまった、と説明できるのである。この事件は当時支配していたサルタンのイメージに影響を与えた。とある不公平さがサルタン自身かあるいは宮廷の高官たちの行動に起因しているかを一般大衆はふつう区別しないのである。

このような事件が、南海の女王がうまく制御できなかった Patih Jawi の権力が存在する南海の王宮で発生することは確実なのである。上記の南海の女王の部下も女王のように姿を変えることができるのであることはいうまでもない。この件で、上記の Srandil の神秘主義者が見つけた、南海の女王と同質視される神秘的な出来事を見たり注目したり認識したり経験したことにより、人間はしばしば南海の女王に騙されたということは正しいのである。南海の女王、あるいは南海冥府の女王あるいは Nyai Blorong と呼ばれるのは誰かということをはっきりさせるために、著者は以下に、上記の負の対極にある人物が確かに南海の女王ではないということを指し示す物語を紹介する。

++解釈その一　南海冥府の女王あるいは Nyai Blorong は Dewi Nawangwulan である++

第一話は、Purwodadi 県 Tawangharjo 郡 Tarub 村の村民たちと中部ジャワとジョグジャカルタの一部の人達の間で伝えられてきた伝説とともに Babad Tanah Jawi の各種の版にある物語との関係がある。この物語は Parangkusumo の Syekh Maulana Maghrib あるいは Syekh Ibrahim の墓地の存在と関係している。

Babad Tanah Jawi のみならず口頭伝承でも、wali sanga の呼び名で後日知

られるようになった多数の伝道師うち、Syaikh Maulana はジャワ(中部)に最初にやってきた一人となっている。Syekh Maulana はマジャパヒトが崩壊する前に遠方からやってきたのである。<100>ジョグジャカルタの人達の口頭伝承の物語によると Syekh Maulana はメッカの王の息子であり、ムハンマドの子孫であるとのことである。彼は住民たちをイスラム化するという業務を得た。その業務とは預言者ムハンマドの遺産である履物を示すことであった。彼はジャワの南部の Selatan 地域にやってきたのでこの地区にいわゆる彼の墓地というものが存在する。

後世の神話の発展で、この Syekh Maulana はジャワの大宮廷と深い関係を持つようになったと信じられている。

物語は、Temenggung Wilatikta が Sunan Kalijaga の妹である Dewi Rasawulan を、Sunan Kalijaga に先んじて結婚するべく呼び出したことから始まる。本人とは不釣り合いの結婚は最愛の兄の限度を超えていた(当時 Lokajaya[16]の信用を得ていた)と Dewi Rasawulan は述べている。それ故、Dewi Rasawulan は、後日両親からの恩恵を得るようになる放浪の旅の許しを得ようと父親に許しを求めた。Dewi Rasawulan はしばらく放浪していた時、Brandal Lokajaya は Sunan Boangn に従うことに気が付いて Sunan Melaya という称号を得たのであった。(Santoso, 1979: 79-82)

その時分、Dewi Rasawulan は放浪して Glagahwangi の森を目指し、鹿とともに生活して、南からやや東の方角に向かって食べ物と泉を探しながら、一群の鹿とともにさすらった。

Dewi Rasawulan の一群の鹿は海(Parangtritis)からそれほど遠くない森の中にある澄んだ池にたどり着いた。その池畔には葉が生い茂る大木が沢山あった。葉が生い茂った大木の上で Dewi Rasawulang は知る由もなかったが、メッカから来た Syekh Maulana Maghribi が修行をしていた。この導師は熟考しジャワのムスリムの共同体を作るべくアッラーに許可を得ようとしていた。しかし、まだ時は至らずアッラーはその許しを与えなかっただけだったのである。<101>

[16] Brandal Lokajaya は Sunan Kalijaga の別名

木の上で瞑想をしている導師がいるとは知らない Dewe Rasawulan は水浴をして身を清めたくなった。来ているものをすべて脱ぎ捨ててその池の水に入って水浴びをしたのだった。Syekh Maulana Maghribu の瞑想の後、水浴びをしている Dewi Rasawulan の姿が彼の目に飛び込んできたので、熱情が芽生えて恋心に心が震えた。体内の感情に流されて彼は Dewi Rasawulan と寝てしまったのであった。

やがて、満足するまで水浴した後、Dewi Rasawulan は湖水から上がり、足を洗おうと水面を見た時、彼女は水面に美しい若者の顔を見つけ、美しい思いと感情に流され、彼女はこの青年とすでに床を共にしたことがあるかのように感じた。

Dewi Rasawulan はその後そこを去った。確かにジャワの土地に諸王を遣わす最高の霊を呼び出そうとするアッラーからの運命になったとはいえ、Dewi Rasawulan は身ごもった。おなかがますます大きくなった後、Dewi Rasawulan は、樹上で瞑想していた導師に辱められたと感じた。Dewi Rasawulan はその池まで戻り Syekh Maulana に会った。Syekh Maulana が彼女をだましたと訴えたのだった。Syekh Maulana は樹上から降りてきて恥部を引き抜き、それを直ちに Braja Sangku という武器に変えた。彼は、Dewi Rasawulan に対して、彼は本当に妊娠させたのではないと説明し、これは将来良い影響を及ぼすアッラーからの運命であるとはっきり述べた。

Dewi Rasawulan はそれを理解して許しを乞うた。その後、Syekh Maulana は胎児を呼び出すことに賛成すると述べた。Syekh Maulana が呼び出した直後に Dewi Rasawulan の子宮から子供が生まれ Syekh Maulana の膝の上に直接落ちた。この赤ん坊は満月のように光り輝く顔をしていた。Dewi Rasawulan は自分の子供と宣言するには恥ずかしがっていたがこの赤ん坊に大喜びした。Syekh Maulana は其の後、この男の赤ちゃんの両親は鹿のように修行をしていたから、この赤ん坊を Kidang Telangkas という名前にしたいと申し述べた。〈102〉 Dewi Rasawulan はこの子を育てるつもりはなかったがそれに賛同した。

Syekh Maulana によるとこの赤ん坊 Kidang Telangkas は、夫と子供が死んだ

ため 35 日間のプアサを行った後、Nyai Tarub という未亡人に預けされた。赤ん坊以外に、Nyai Tarub は Braja Sangkuh と吹き矢を与えられた。この赤ん坊は長じて Jaka Tarub という名になった。

Braja Sangkuh は槍であったが、マタラム時代に至るまで Rasawulan の子孫に代々伝わっているクリスに形を変えた。現在これはジョグジャカルタの王宮の家宝の一つになっている。

やがて Jaka Tarub は成人し Ki Ageng Tarub[17]と名乗った。Ki Ageng Tarub は後日天女をめとった。とある時 Ki Ageng Tarub が森をめぐっていて、Dewi Nawangwulan と Mayangsari, Gagarmayang, Dewi Surendra の四人の天女が池で水浴しているのを見つけた。Ki Ageng Tarub は、天女の一人分の衣、実は Dewi Nawangwulan のもの、を盗んだのだった。水浴が終わり Nawangwulan は自分の衣がないのに気づき、彼女は池のほとりに残され姉妹たちは天国に戻ってしまった。

Ki Ageng Tarub は Nawangwulan を彼の家に招き、彼らはその後結婚した。結婚後、長じて Brawijaya 王の王子の一人でマタラム王朝の祖先の一人となる Bondan Kejawen 別名 Lengmu Peteng と結婚した Nawangsih という名の娘が生まれた。

Nawangwulan はこの後で Ki Ageng Tarub が盗んだ羽衣を見つけたが、人間と結婚したために天国へは帰れなくなってしまった。それゆえに、彼女は Nyai Blorong として大衆に知られてもいる南海冥府の女王になり、永遠の命を持ち南海に都をおく、霊界の女王である南海の女王の将軍になったのである。このように、種々の Babad Tanah Jawi の版にみられるように、さらにはジャワの社会に伝わる物語を通じてこれは信じられるようになったのである。〈103〉これらの神話は、マジャパヒトの諸王と Wali Songo、メッカの諸王、ムハンマド、霊界の女王とマタラム王宮とを結びつけるものの存在を見せるのである。彼らの全てはすべての可能性をつかむためにマタラム王朝にその正統性の証拠を与えている。これ以外には、この神話は(アラブの Maulana の子孫に代表される)

[17] ジャワでは以前、成人するときに名前を変えた。Jaka とは未婚の青年男子の意味。

イスラムと(マジャパヒトに代表される)ジャワ・ヒンドゥーの伝統(南海の女王に代表される)霊への信仰が有機的に結びついていることを確信させるのである。

上記の物語から、最初からジャワ社会は南海の女王と南海冥府の女王とは異なる人物であり、この二人のやるべきことも異なっていることを理解していたという重要なヒントが得られる。

++解釈その二　南海冥府の女王あるいは Nyai Blorong は南海の女王の娘である++

南海冥府の女王あるいは Nyai Blorong の出自に関する第二の物語と伝承は西部ジャワ州の Pelabuhan Ratu と Pangandaran 付近の口伝から得られる。

物語はまず修行をこの Pangandaran の住民がいたことから始まる。その瞑想の場所は、偶然にも現在 Pelabuhan Ratu の Karang Bolong と呼ばれる有名な場所にある洞窟の一つであった。

この Ki Ageng Tambir が長いこと修行を行った後でどこから来たのか氏素性がわからない人の訪問を受けた。この訪問者は南海の支配者の使者であった。この来客は、人間たちが正しい道を選ぶか間違えた道を選ぶかという人間たちの心を試すという仕事を与えるという命令を受けてきていた。Ki Ageng Tambir とその子孫達は上記の「試す者」としての仕事に服すことができると見られたからなのであった。

その客が来た後も、Ki Ageng Tambir は修行の習慣をつづけた。数日の間の修行の後、ちょうど満月の日がやってきて、しばらく前に使者から伝えられた約束の通り、Ki Ageng Tambir は南海の女王の訪問を受けた。<104>この訪問で、南海の女王は Ki Ageng Tambir に、次の満月の日にガラスの箱に入った卵が孵化するまで大事に保管する仕事を与えた。南海の女王は、卵が孵化して出てくる魑魅魍魎に Nyi Blorong という名を与えるように命じた。Blorong という語はそれ自身ジャワ語では黒と白の「縞々」を意味する。南海の女王は Ki Ageng Tambir に、Nyi Blorong はやがて人間たちを誘惑したり道を誤らせる仕

事を背負うことになる。南海の女王はこの訪問でも卵の中の魑魅魍魎は自分の子供であることを明言したのであった。

Ki Ageng Tambir 自身はこの義務が自分になぜ課せられたのか理解できなかった。彼は普通の人間であり、卵の中の魑魅魍魎は霊界からきたものであったからである。修行の途中で、現存する人間はオオカミの組織にいるようなものであり、助け合うことを学ばなければならないということに Ki Ageng Tambir は気づいたのであった。卵の中の魑魅魍魎は人間に道を誤らせるために存在し、そのためこの魑魅魍魎は人間の間で生活することを学ぶ必要があったのである。その反対に、警告や注意の形として、精神世界を進むときに誤った道に嵌らないように他の自然界に住む魑魅魍魎の性格を学ぼうとしていたのであった。

その後一か月の間 Pangandaran の洞窟の中で、南海の支配者の使者に伴われて Ki Ageng Tambir はガラス箱の中の卵が孵化する瞬間を待ち続けた。ついに、天候が変わり暗くなって満月の光がとざされ雷鳴がとどろき篠突く雨が降り始め、使者よればこりはもうすぐこの卵が孵化する兆候であるとのことであった。Ki Ageng Tambir はこのような異常な事件を見られないと文句を言ったが、この使者は自分のような生き物にとって明暗はないと言った。

その時は洞窟の中に一条の光が上からさしてくることでやってきた。この光はガラスの箱に衝突しこの箱は大音響とともに砕け散った。〈105〉尋常でない感覚に伴われ、Ki Ageng Tambir は卵が割れて水田で見かけれられるような小さな蛇(ナミヘビ)が生まれた。

当初 Ki Ageng Tambir は、生まれたのが小さな蛇で他の蛇と同じように見えたのでがっかりした。この小さな蛇が龍の大きさまでどんどん大きくなったのでこの落胆はすぐに尋常でない驚きに変わった。この時外では天候は晴れに変わり黒雲は吹き払われ満月の光が満ちた。

天気が変わりどんどん明るくなるにつれてこの巨大な蛇はゆっくりと変わり始め大変美しい若い女性の形になったのであった。その時には南海の女王はゆったりとした服装でそこに臨席し、自分とは異なる人生上の義務を運命づけられた自分の子供が生まれるのを見ていたのであった。

この洞窟の中で後日、この娘は南海の女王の宮廷侍女に守られた。次はKi Ageng Tambir が子守をする番になった。そして一か月後にこの美しい女性は南海の女王の希望通りに、その名前を聞いた者が震えてしまうような Nyi Blorong と名付けられた

Ki Ageng Tambir は南海の女王から、Nyi Blorong の第一の仕事は人間から神への信仰を取り上げて Nyi Blorong を人間たちのよりどころにするように人間たちに道を誤らせるようにすることだと聞いていた。Ki Tambir は、Nyi Blorong に一緒に働く人間は誰でも自分の将来を破壊することになることを理解していた。Ki Ageng Tambir は、後日 Goa Pesugihan という名で知られるようになる洞窟の管理人として取り上げられた。Ki Ageng Tambir は、Nyi Blorong と連絡をつけようとする誰でも送り届けるとともに、これに関するいろいろな条件と大きなリスクを説明するという仕事を得た。〈106〉とはいえ、あふれかえる財宝でたぶらかして人間たちに道を誤らせる霊界の生き物と連絡を取るために彼が選ばれたり、上記の仕事について時々思い悩むことはあったにせよ。

それ以来、Goa Pesugihan を知る人が増え始め、リスクを冒してまでも Nyi Blorong に協力することで簡単に現世での栄光を探そうとする人たちも増えた。Nyi Blorong がまだ Goa Pesugihan を作業の中心地としていた間、子供を訪ねるために南海の女王が時々この場所にやってきた。この訪問以外に、人間たちに道を誤らせようとするその仕事を忘れないように女王はしばしば念を押した。Nyi Blorong は、この世での栄光を得るために援助を求める彼らに対して、選択して実行するように注文した。第一の標的は、精神的に軟弱で気が小さく、神への信仰が不足し、現世の問題に取り組むときに健常ではない精神をもって人生を渡ろうとしている人間たちであった。

当初 Nyi Blorong は確かに Goa Pesugihan を中心とした活動範囲としていた。とある時 Pangandaran の民間伝承によると、Nyi Blorong の信奉者たちの厄払いとなった犠牲者たちが増加した後、Pangandaran 地域に Ki Ageng Shalih という導師がやってきた。

民間伝承によると、確かに、Nyi Blorong から与えられる地位や財産を得る条件の一部とは、毎月の満月の晩にいけにえとして一人の人間の命を差し出して、その命を南海の住民にすることであった。このいけにえになる人間とはかならずしもその家族関係者でなくてもよかった。友人、遠戚、良く知っている隣人でもよかった。これ以外に、上記の人は彼以外には入ってはならない特別な部屋を自宅に作らなくてはならなかった。この特別な部屋は、Nyi Blorong への供物を供えたり、Nyi Blorong がいつでもやってきて夫婦関係を持つための部屋として、さらには Nyi Blorong が彼女の信奉者たちに与える現世の財産を置く場所に用いられる。特別な供物は毎週木曜日の晩と Jumat[18] Kliwon[19]と Selasa Kliwon の深夜に供えられる。この特別な部屋で、いけにえが供せられる普通一か月前から、人間がいけにえになる時期が近付いていると Nyi Blorong が知らせるのである。

毎年いけにえの季節が近づいてくると Nyi Blorong の信奉者たちは Nyi

[18] **Jumat** と **Selasa** はそれぞれ金曜日と火曜日。ただしインドネシアでは一日は日没から始まるので直訳すると金曜日の夜 **Malam Jumat** とは日本の木曜日の晩に相当する
[19] ジャワの暦。和暦でいうと「六曜」。

Blorong の洞窟の一つで儀式を行わなくてはならなかった。洞窟の番人によると、若い人あるいはいけにえとはなりえない人を含めて上記のいけにえになろうとする人たちがみられたとのことである。普通、彼らは神に近いために、彼らが持つエネルギーが同じでないためにいけにえにはならないのである。

種々の神秘的な話によると、Nyi Blorong の信奉者たちは実際に通知が言っているとのことである。例えば、この嫉みの壺に飛び込む前に、この番人は、飛び込もうとする人たちが供えられるべきいけにえを忘れたり用意していない場合には強制的に彼ら自身がいけにえにならざるを得ないというその影響やリスクについて彼らに念を押すのである。この条件に賛同できない場合には Nyi Blorong との契約は無効になる。これ以外に、一生涯誤った道に進んだ亡くなった人達からその影響を見せつけられることで教えられたりするのである。〈108〉いけにえになった人たちの不幸な状態を見せつけられることもある。すでに現世で快楽を得て財産や地位を得てしまうとすでに手遅れであるがゆえに普通はこの利害関係者は誤った道を進むのである。

Pangandaran 付近で多数の犠牲者が出た後、Ki Ageng Shalih が、Nyi Blorong の行動する中心を移動させるために、弟子たちとともにアッラーに祈願した。Nyi Blorong が障害になっていたため驚くべき衝突対立が発生した。この戦いは Ki Ageng Shalih の勝利に終わり、Nyi Blorong は Pesugian 洞窟から撤退したのであった。

Nyi Blorong の Pangadaran からの撤退で、Nyi Blorong への信奉を求める人たちの行動が止まったわけではない。Nyi Blorong が南海に撤退したゆえに、彼女の行動範囲はますます拡大し、どこでも可能になったのである。それ故、その後、あちこちの場所で、Nyi Blorong を信奉することで財産やより高い地位を得るための儀式を行う場所になった特別な洞窟が数多くみられるようになったのである。

これが、西部ジャワ州に流布している(Soekardi と Syahbudin が発見した)Nyi Blorong と南海冥府の女王の出自の物語であり、一般的にジャワ社会の一部で信じられているものである。この神話あるいは伝承は Nyi Blorong と呼ばれる

南海冥府の女王あるいは Nyai Lara Kidul と南海の女王との違いをさらに明確に述べているのである。それ故、南海の神秘的存在に関連して各種の悪質な事件を伴う暴動が起きても、それは南海の女王の影響ではないのであり、南海冥府の女王あるいは Nyi Blorong から仕向けられた仕業なのである。

第二節　南海の女王の名前百種

南海の女王はジャワの神秘主義者が与えた多数の名前を持っており、それは以下の通り百を超えている。

1. Sekaring Jagad の南海の女王様(Kanjeng Ibu Ratu Kidul Sekaring Jagad)
2. 南海の女王様(Kanjeng Ibu Ratu Samudera Kidul = 南海の支配者)
3. 栄光の大洋の女王様(Kanjeng Ibu Ratu Segara Jaya = 勝利で南海を支配するもの)
4. 天女 Nariswari 女王 (Bathari Ardha Nariswari = 皇后になったもの)
5. 天女 Artati (Bathari Artati = 常に目的に向かって霊感を与えるもの)
6. 天女 Mawiryawan (Bathari Mawiryawan = 勇敢なもの)
7. 天女 Pramatatya (Bathari Pramatatya = 最高の真理を表すもの)
8. 天女 Limpadopatari (Bathari Limpadopatari = 鳥と矢で常に囲まれたもの)
9. 天女 Prakasita (Bathari Prakasita = 高名な・有名なもの)
10. 天女 Cakrawarti (Bathari Cakrawarti = 世界の支配者)
11. 天女 Hentayasa (Bathari Hentayasa = 高名さを持った)
12. 天女 Maharsa (Bathari Maharsa = 大望を持ったもの)
13. 天女 Satya (Bathari Satya = 忠実なもの)
14. 天女 Drawela (Bathari Drawela = 憐憫の情をもって心を砕くもの)

15. 天女 Panulu (Batahri Panulu = 指導者あるいは支配者)
16. 天女 Sasmaya (Bathari Sasmaya = 魑魅魍魎を有し、支配し、制御するもの)
17. 天女 Sacita (Bathari Sacita = 心のきれいさを常に背負うもの)
18. 天女 Gurilap (Bathari Gurilap = 輝きを持つ)
19. 天女 Pramudika (Bathari Pramudika = 歓喜を呼び込むもの)
20. 天女 Pramudita (Bathari Pramudita = ともに大自然を守るもの)
21. 天女 Bisama (すごさを有するもの)
22. 天女 Maribawa (他人を打ち負かすことができるもの)
23. 天女 Ratnawadu (心の宝石となるお似合いのカップル)
24. 天女 Kusumawicitra (芳香を放ち敏捷さと専門性を備えたもの) <110>
25. 天女 Candramaya (月の光のように美しいもの)
26. 天女 Subasita (きわめて礼儀正しいもの)
27. 天女 Paramarta (paramarta は最高位の真実を意味するゆえにこの意味は聖なる性格を持つものとなる)
28. 天女 Pranamia (高い評価と尊敬とをよく与えるもの)
29. 天女 Pranwa (聖典を有しその内容を追及するもの)
30. 天女 Pramusita (クールで癒すもの)
31. 天女 Tirta Marta (聖水を広げるもの)
32. 天女 Maha Bisana (驚きと強さを有するもの)
33. 天女 Wigata (常に心配りするもの)
34. 天女 Sudarpa (美しい喜びを与えるもの)
35. 天女 Baswara (神が選んだ特別にされたもの)

36. 天女 Mahayu（神に隷属することを身につけるもの）

37. 天女 Sundariya（美女）

38. 天女 Prabanarawata（吉報をよく与えるもの）

39. 天女 Prabaswara（輝きを与えるもの）

40. 天女 Dumilah（光を放つもの）

41. 天女 Maningraha（刑罰を与えるもの）

42. 天女 Sahana（存在の全てを知るもの）

43. 天女 Ngupaksoma（許しを与える性格を持つもの）

44. 天女 Lumba（利益をもたらすもの）

45. 天女 Pahayu（育成・揺籃するもの）

46. 天女 Hanawa（代表されるもの）

47. 天女 Saroya（援助・支援を行うもの）

48. 天女 Yumana（黄金の車を運転するもの）<111>

49. 天女 Pujabrata（常に祈りを捧げ心から願うもの）

50. 天女 Pudyasatota（賞賛を保持し与えるもの）

51. 天女 Kanapa（地域を有するもの）

52. 天女 Widiyuta（稲妻の力を所有するもの）

53. 天女 Mapita（満月に近づくにつれますます美しくなるという意味での実り）

54. 天女 Sanadya（庭あるいは出会いの場を所有するもの）

55. 天女 Binawa（先に作られたもの）

56. 天女 Prabu Dumilah（宮殿の中心としての Lawu 山に戻った光り輝く丘の支配者）

57. 天女 Ngupasonda（宗教上の指導者たちに従うもの）

58. 天女 Pratanjana（神への信仰を第一に優先するもの）

59. 天女 Gurnita（大軍をもって襲撃ができ、大騒ぎする軍勢を有し、温かく敷く親密な性格を持つもの）

60. 天女 Kumara（尊敬されるもの）

61. 天女 Payuwaha（美麗な宴を催すもの）

62. 天女 Niyasa（高名さを手繰り寄せるもの）

63. 天女 Kulandara（常に主人として扱われることになるもの）

64. 天女 Satiti（非常に厳しいもの）

65. 天女 Sadaka（聖者のような精神を持つもの）

66. 天女 Ludana（来訪者を理解するもの）

67. 天女 Padhapa（香炉を通じて連絡するもの）

68. 天女 Benggala（将軍や軍司令官になるもの）

69. 天女 Tumitah（神によって創造され力をふるうもの）<112>

70. 天女 Rasika（「あのかた」と呼ばれるもの）

71. 天女 Nirmala（常に危険を避けるもの）

72. 天女 Pragiwaksana（裁判で判事の席をしめるもの）

73. 天女 Subasa（美しい大きめの衣服を持つもの）

74. 天女 Madrenya（山のように堅固なもの）

75. 天女 Pangusada（治療するもの）

76. 天女 Parigraba（母となるもの）

77. 天女 Nugraha（神の恩恵の道となるもの）

78. 天女 Mahajeng（尊敬すべき女性）

79. 天女 Srediya（観世音菩薩の美しさを持つもの）

80. 天女 Hupadrowa Sakirna（すべての懊悩を避けるもの）

81. 天女 Maderdyo Nyamuho（一緒になって話し合うことで用事を終わらせるもの）

82. 天女 Papayu Sarupa（顔を守るものを使うもの）

83. 天女 Hasmaralaya（愛の悲しみの基になる）

84. 天女 Kasampatan（余裕を常に持つもの）

85. 天女 Avalakitesvara（愛をもって心を喜ばせる）

86. 天女 Sakirna（追い払うもの）

87. 天女 Halyuna（共に心配の全てを終わらせる）

88. 天女 Pawitra（清めるもの）

89. 天女 Kanaya（常に神に追随するもの）

90. 天女[20]Welas Asih（慈愛を常に持つ処女）

91. 天女 Pamuryan（後ろから援護するもの）

92. 天女 Kencana Sari（黄金の花が咲いている処女）<113>

93. 天女 Sanggramawijaya（世界を守護するもの）

94. 天女 Sanggabuwana（全宇宙を共に支えるもの）

95. 天女 Sanggalangit（天界を支えるもの）

96. 天女 Cinde Wine（美しい妻となる準備をしているもの）

97. 天女 Kandita（すべてを受け入れるもの）

[20] 原文ではここまでの「天女」は Bathari であったがここからの「天女」は Dewi であった。

98.　天女 Ajar Cemara Tunggal (唯一無二の意味を知った聖者)

99.　天女 Pradnya Paramita (宗教上の知識を支配するもの)

100. 天女 Tanuraga (愛して欲しいと要求しないもの)

101. 天女 Sekar Madhapi (希望の花を持つもの)

102. 天女 Ratu Mas (高貴で選択する支配者)

103. 天女 Mawar Sri (バラの花のめしべを持つもの)

104. 天女 Putri Sri Wulan (美しい満月のような容貌を持つ処女)

105. 天女 Retna Suwidi (常に規範を優先したり神の許可を得るもの)

106. 天女 Angin-angin (天界の処女)

107. 天女 Ratu Ayu Pagedhongan (最高の見目形をもつ美の女神)

108. 天女 Nawangsih (愛のこだまを持つ処女)

109. 天女 Nyai Mada (常に輝きを捧げる深い愛情を持つ母)

110. 天女 Ayu Sawiji Sekaring Jagad (すべての装飾の花になる処女)

上記の名前は、神秘主義の視点に見られる、守り育てる神の創造物としてその存在と個性、権力、やるべきことに基づいた南海の女王に対して与えられたものである。

南側のみならず北側も海に囲まれたインドネシアではないかという疑問がわいてくる。今まで、なぜジャワ神秘主義の表徴になった南海の女王のみなのであろうか?<114>北の海には霊界の住民はいないのだろうか?

北の海の支配権は南海の支配者の元にあるが、北の海にも霊界の住人は確実に存在し支配者もいる。以下はその伝説である。

第三節　南海の女王と北海の女王の邂逅

Dewi Lanjar は現在に至るまで、まずは Pekalongan の大衆の生活とその精神に影響を与えている伝説になっている。すべての出来事は Dewi Lanjar としばしば結び付けられており、海岸で遊んでいる子供たちが行方不明になる時はいつでも、Dewi Lanjar に連れていかれたと彼らは必ず考えるのである。子供たちが発見されたときはいつでも、この子たちは自分がとある地域あるいは我々のような住民がいる宮殿に迷い込んだというのである。彼らはバティックを作ったり、商売したり、職人や漁民など我々と違いはないのである。この地域は Dewi Lanjar という美しい処女に支配されているのだ。

その昔 Pekalongan のある所に光り輝くような美人が生きていたと語られており、Dewi Rara Kuning という名で有名な土地であると今に至るまでこの話は人々の口に上っている。

その波乱に富む人生の中で Dewi Rara Kuning は大変重い悩みを持つことになった、というのはとても若かったにもかかわらず未亡人になったからであった。彼女の夫は結婚後まもなく死んだのだった。だからそれ以降 Dewi Rara Kuning は Dewi Lanjar (Lanjar とは若年で離婚され子供のいない女性の呼び名)と呼ばれるようになった。夫に先立たれてから Dewi Lanjar は常に悲しんで亡き夫のことを考えていた。この状態はしばらく続いたが、やがて Dewi Lanjar はこのままにしておいては良くないと考えるようになった。それゆえに彼女は生まれ故郷を後にして、不運を嘆く心を共に放浪に出ることを決意したのであった。〈115〉

上記の旅路で Dewi Lanjar は Opak 川[21]に着いた。そこで後日、川に浮かんで苦行をしているマタラム王と Singaranu 宰相に出会った。この出会いで Dewi Lanjar は心に秘めていたことを話し再婚する気持ちはないと述べた。Panembahan Senopati[22]と Singaranu 宰相はその話を聞いてかわいそうな気持ちになった。それ故、南岸で苦行を行うとともに南海の女王にも会おうと助言した。しばらくして、Panembahan と宰相は Opak 川で苦行を続ける一方、Dewi Lanjar は南海の女王

21 ジョグジャカルタ市東方を南北に流れる川
22 初代マタラム王。上記のマタラム王とは同一人物。

に会うために南岸に向かうため、彼らは別れたのだった。

この出会いで Dewi Lanjar は南海の女王の部下にしてほしいとのぞみ南海の女王の了解を得た。とある日 Dewi Lanjar は Gambiren の森(現在の Pekalongan の Anim 橋と Raden Bahu が火を作った Sorogenen 村付近)を開墾している Raden Bahu を妖怪たちとともに邪魔をして仕事を辞めさせるよう命令を受けたが、Ngalong (コウモリのような)の苦行で得た Raden Bahu の超能力により、Dewi Lanjar と妖怪たちの全ての誘惑は退けられたとともに Raden Bahu に従うことになってしまった。<116>Dewi Lanjar は義務を果たすことができなかったので南海に戻らないことを決め、Pekalongan に住むことを Raden Bahu に願い出たのだった。Raden Bahu と南海の女王がそれを認めた。Dewi Lanjar はジャワ北岸とくに Pekalongan に住むことを許された。もちろん Dewi Lanjar の宮殿は Pekalongan の Slamaran 川のほとりに位置していたのであった。

第四節　南海の女王と Suro の月[23]との関係

上記の話をよく読んでみると、Muharram あるいは Suro の月と南海の女王との間に、本当に特別な関係はないことがわかる。互いに異なる自然界の次元の違いにより、有効な時間の次元もまた異なるのである。霊界の時間はこの実存世界の時間に比べて長くまた弾力的でもある。一方、Muharram あるいは Suro の月は人間界の時間の次元である。

南海の女王がいつ Panembahan Senopati に会うことができるかという時間を、南海の女王と Muharram との関係にすることができるのであろうか?マタラム王朝の諸王に南海の女王がいつ特別扱いして会うのだろうか?その特別な時期とは Muharram の月であると盛んに言われている。実際にマタラム王宮の人達によると上記の月間の一部は隠遁修行の月であるとのことであり、当時の大衆の理解では南海の女王が「娶る」時とされていた。南海の女王とマタラム王の出会いという可能性はあるが、Muharram の月の時間的次元では、上記の出来事とは特別な関係を有しないことは確かである。はっきりしているのはジョグジャカルタ王宮の伝統と

[23] ジャワ歴の一月。この月にジョグジャカルタでは様々な伝統行事が行われる。

ジャワの大衆の儀礼の伝統において、Suro の月の一日にお祝いをするのは、南海の女王との魔術的な関係を有しているからなのである。

毎年 Suro の月に「南海の女王が娶る」という概念とは、誕生日祝い、結婚や脂肪などの周年行事のようなものであるという異なる可能性がある。この件は毎年南海の女王が結婚の宴を行うという信仰に比べてより合理的であるとみられる。ジャワの大衆の信仰では、上記の結婚記念日祝いは、南海の女王の娘の一人である Ratu Ayu Gagak Aking との結婚記念日になっている。

2018 年 2 月 2 日　訳出終了